

二谷小学校の建替えに伴う 学校規模適正化に関する説明会

令和3年7月29日（木曜日）14：00、18：00

令和3年7月30日（金曜日）14：00、18：00

教育委員会事務局 施設部

次 第

- 1 学校の建替えについて
- 2 両校の現況
- 3 建替えに伴う学校統合検討
- 4 建替えに伴う学校規模適正化の検討について
- 5 今後のスケジュール（想定）
- 6 質疑応答

1 学校の建替えについて

1 学校の建替えについて

- 「**横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針**」(平成29年5月)に基づき、学校建替えの取組を進めています。
- この基本方針では、昭和56年(1981年)以前に建設された学校を建替えの対象としています。
- また、学校施設の目標耐用年数は70年としています。

1 学校の建替えについて

- ・建替え基本方針では、対象校の中から選定する建替校は、築年数が古い学校から選定することを基本とし、最古の校舎の築年数が原則として70年を超えないようにしています。
- ・建替えは、全面建て替えを基本にしています。
- ・小規模校化が見込まれる場合等は、建替えを見送るとしています。

1 学校の建替えについて

- ・建替え基本方針では、次の視点も必ず検討し、学校施設の建替えを進めていくとしています。
 - ① 機能改善（増築・改修による使い勝手の悪化やグラウンドの狭あい化などの解消等）
 - ② **小規模校の適正規模校化の検討（学校統合）**
 - ③ 学校施設と他の公共施設等との複合化の検討

2 両校の現況

2 齋藤分小学校と二谷小学校の現状

◆両校の基礎情報

学校名	二谷小学校	齋藤分小学校
開校年	明治38年度	昭和33年度
親校	—	二谷小学校・神橋小学校
小中一貫教育推進 ブロック	栗田谷中学校	六角橋中学校

2 両校の現況

◆二谷小学校の 児童数・学級数

令和3年5月1日現在、
一般学級の児童数358名、13学級
(各学年2～3学級)の適正規模校です。

また、13名の児童が個別支援学級に通っています。

2 両校の現況

◆二谷小学校の校舎等

平均築年数
46.2年



敷地面積 7,611m²

グラント面積 2,173m²

2 両校の現況

◆斎藤分小学校の児童数・学級数

令和3年5月1日現在、

一般学級の児童数189名、6学級（各学年1学級）

の小規模校で、今後も小規模校の状態が継続していく見込みです。

また、12名の児童が個別支援学級に通っています。

2 両校の現況

◆ 斎藤分小学校の校舎等

平均築年数
43.2年



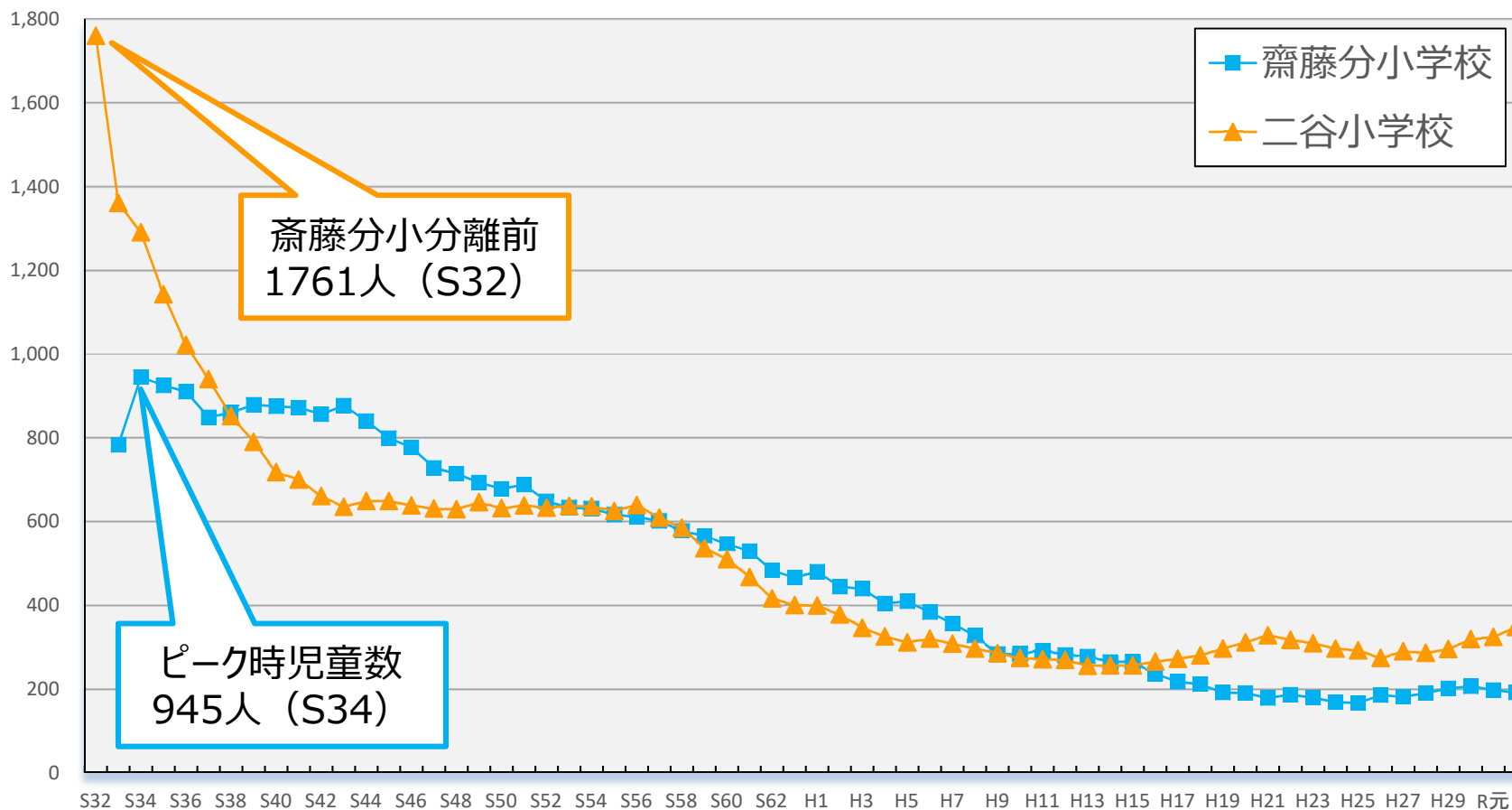
最古の棟
築56年

敷地面積 9,491m²

グラウンド面積 2,426m²

2 両校の現況

◆両校の一般学級児童数の推移



【各年度の5月1日現在の実数値（一般学級のみ）】

横浜市教育委員会調べ

2 両校の現況

◆今後の一般学級児童数・学級数の見込み（段階的35人学級導入対応）

二谷小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	普通 教室数
児童数（人）	348	358	389	399	392	388	383	13
学級数（学級）	12	13	13	13	13	13	13	

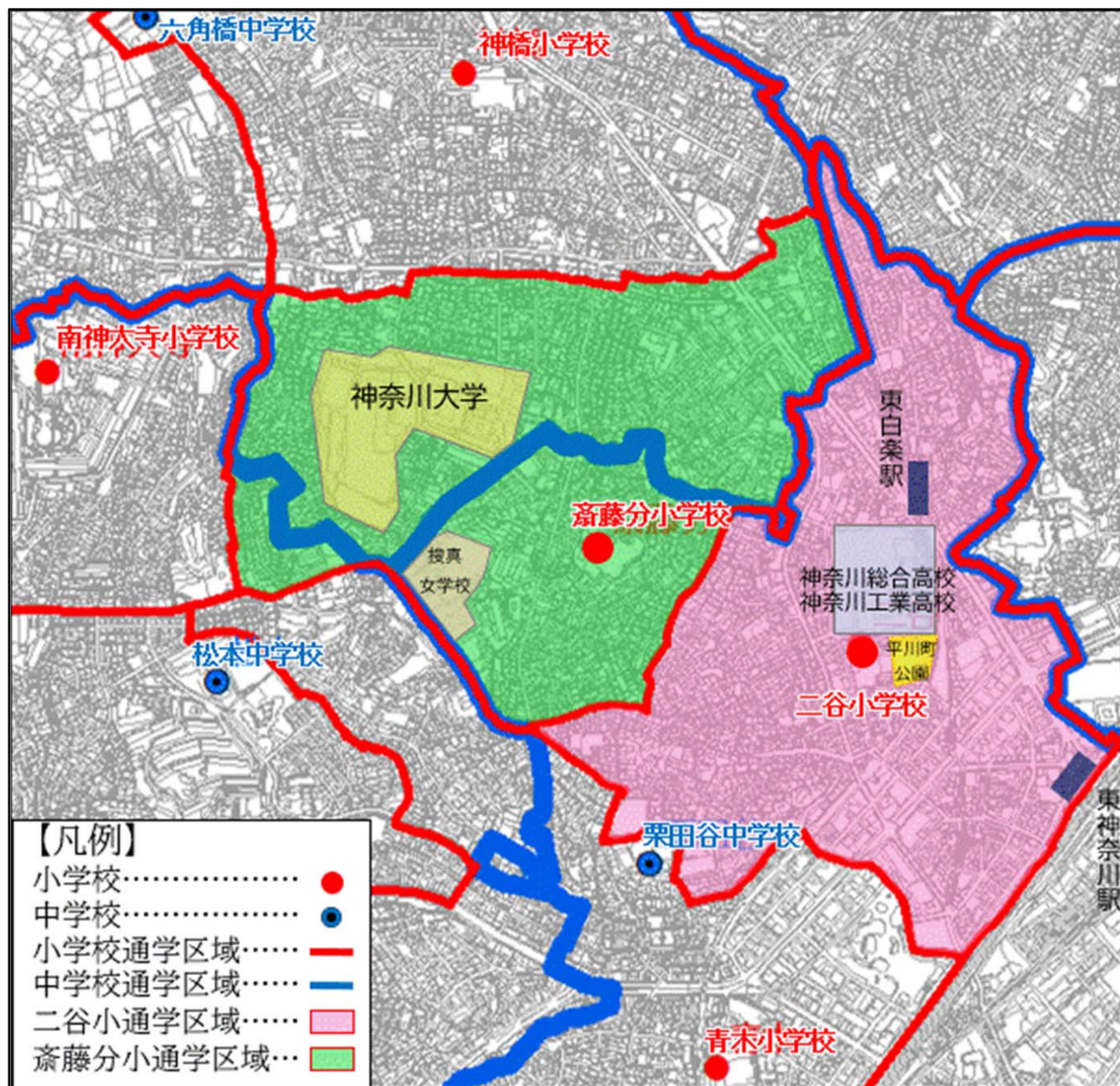
斎藤分小学校	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	普通 教室数
児童数（人）	191	189	186	187	184	203	202	10
学級数（学級）	6	6	6	6	6	7	7	

《令和2・3年度》 5月1日現在の実数値

《令和4年度以降》 令和2年度義務教育人口推計による推計値

2 両校の現況

◆通学区域



3 建替えに伴う学校統合の検討

3 建替えに伴う学校統合の検討

◆建替えに合わせて学校統合する利点 ①

- 最新の整備水準や仕様により、健康的で温もりのある機能的な校舎になります。
- グラウンドが広がるなど教育環境が向上します。

3 建替えに伴う学校統合の検討

◆最近新築した校舎の事例



西区 みなとみらい本町小

神奈川区 子安小



3 建替えに伴う学校統合の検討

◆建替えに合わせて学校統合する利点

○最新の整備水準・仕様による施設整備



西区 みなとみらい本町小

3 建替えに伴う学校統合の検討

◆建替えに合わせて学校統合する利点

○最新の整備水準・仕様による施設整備



鶴見区 市場小けやき分校

3 建替えに伴う学校統合の検討

◆建替えに合わせて学校統合する利点

○最新の整備水準・仕様による施設整備



港北区 箕輪小

3 建替えに伴う学校統合の検討

◆建替えに合わせて学校統合する利点 ②

- 斎藤分小学校の周辺道路は、緊急車両が進入しにくい道が多いため、緊急時の学校の安全管理に課題があります。
 - ➡ 学校統合により、課題が解消し、学校における**子供たちの安全が向上**します。

3 建替えに伴う学校統合の検討

◆齋藤分小学校との学校統合を検討する理由

- 建替える二谷小学校の近隣にある小規模校（通学区域は、二谷小学校から2km以内）
- 齋藤分小学校は、現在6学級の小規模校で、今後も適正規模校化（12学級以上）が望めません。
- 齋藤分小学校も、老朽化が進んでいます。

3 建替えに伴う学校統合の検討

◆両校の敷地にかかる制限について

	二谷小学校	斎藤分小学校
用途地域	近隣商業地域	第1種低層住居専用地域
高さ制限	最高 <u>20m</u> (5~6階建て程度)	最高 <u>10m</u> (2~3階建て程度)
容積率制限	200% (最大約15,000㎡建築可能)	100% (最大約9,000㎡建築可能)

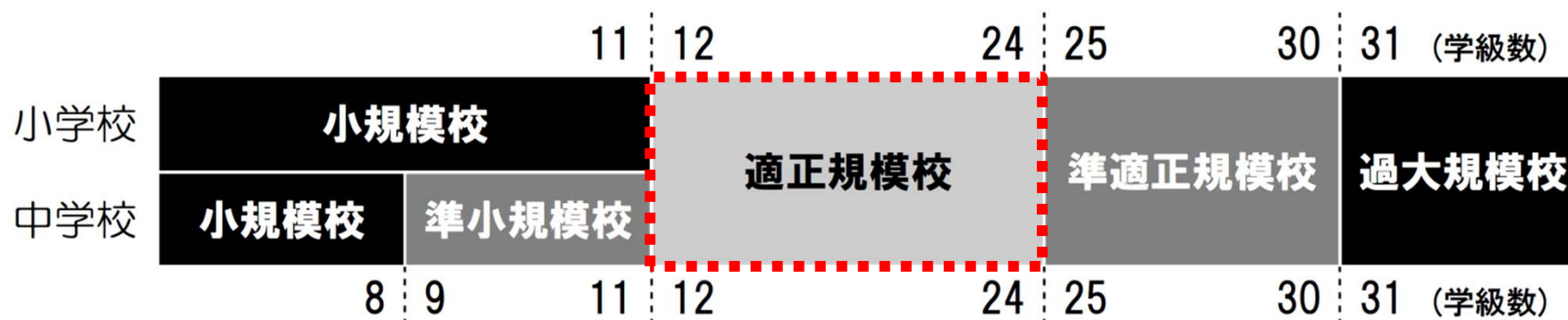
→ 斎藤分小学校では、両校の児童を受け入れられる校舎を建てるのが困難です。

4 建替えに伴う学校規模適正化の 検討について

4 建替えに伴う学校規模適正化の検討について

◆適正な学校規模の考え方

<出典>横浜市立小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針



- ・ 小学校では12～24学級（各学年2～4学級）の学校を「適正規模校」とし、11学級以下を「小規模校」としています。
→横浜市では、小規模校の課題を解消し、教育環境を改善させるため、学校規模の適正化を推進しています。

4 建替えに伴う学校規模適正化の検討について

◆ 『小規模校』の特徴 [児童の視点から]

利点

- 子ども同士よく知りあうことができ、人間関係が密になる。
- 縦割り集団行動などで、異なる学年の子ども同士の関係を深められる。
- 様々な学習活動の場で、それぞれが活躍する機会を持つことができる。
- コロナ禍において、運動会や卒業式等のイベントをあまり密になることなく実施できる。

4 建替えに伴う学校規模適正化の検討について

◆ 『小規模校』の特徴 [児童の視点から]

課題

- △ 多様な個性と触れ合える機会に恵まれにくく、人間関係を修復したり広げたりしていく力や社会性を育てる機会が限られる恐れがある。
- △ 運動会などで一定人数が必要な競技が行いにくくなる。
- △ 子ども同士の間人間関係が固定化しやすい。

4 建替えに伴う学校規模適正化の検討について

◆ 『小規模校』の特徴 〔教職員の視点から〕

利点

- 教職員が校内の子ども全員をより深く理解し、個に応じた指導を行いやすい。
- 学校に対する保護者の理解や協力を得やすく、学校全体で主体的な対応が取りやすくなる。

課題

- △ 授業内容や児童の指導について相談できる機会が減るなど特に、経験が浅い教員の負担が大きい。
- △ 一人の教員が担当する事務作業が多くなり、学級経営、教科研究などに費やす時間が制約を受ける。

4 建替えに伴う学校規模適正化の検討について

◆ 『小規模校』の特徴 [P T A ・ 保護者の視点から]

利点

- 子ども一人ひとりの実態が把握しやすいため、学校と家庭との連携が取りやすい。
- 保護者同士のつながりが強く、お互いに協力しやすい。

課題

- △ P T A 会員が減少するために、役員が固定化しやすい。
- △ 学校行事などの面で、保護者の負担が大きくなる。

児童数・学級数が増えると出来ること

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

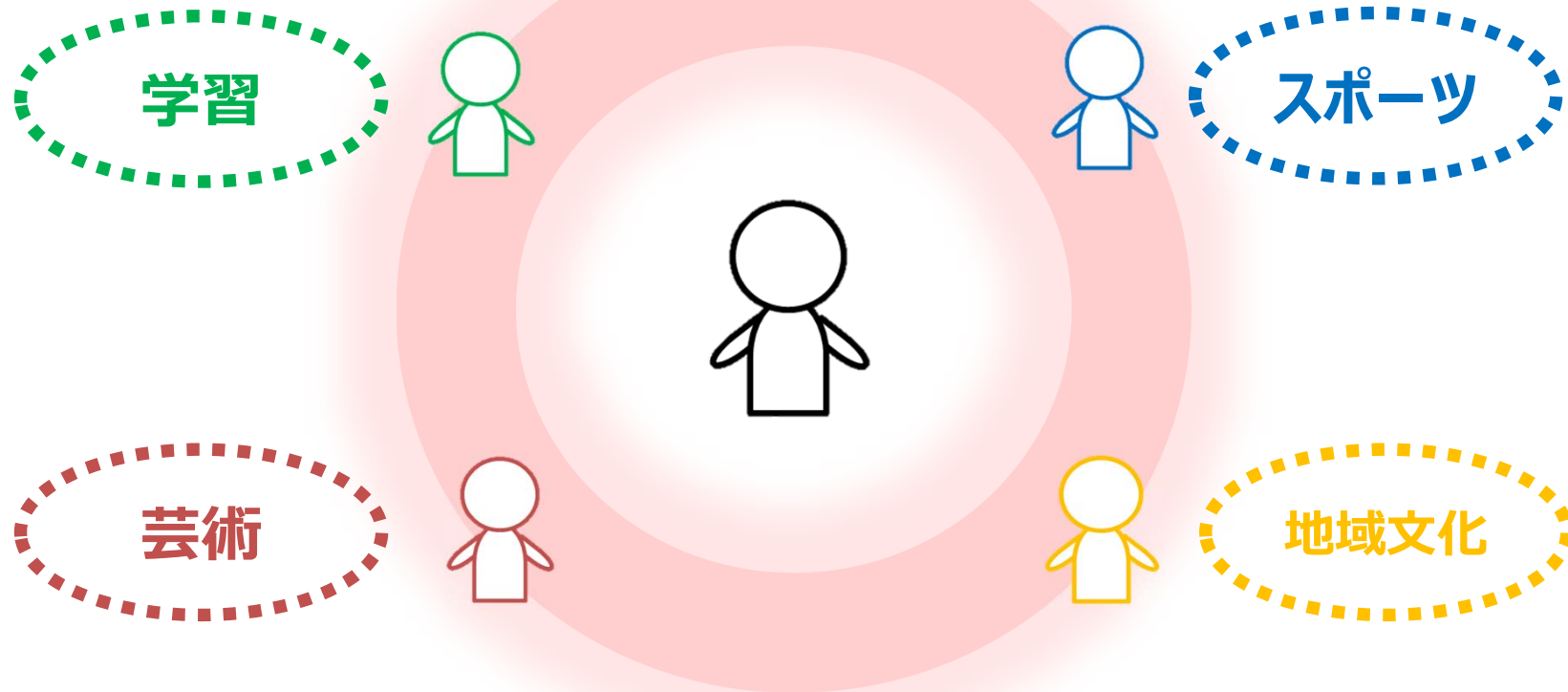
2 学習に関すること

- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる

3 先生に関すること

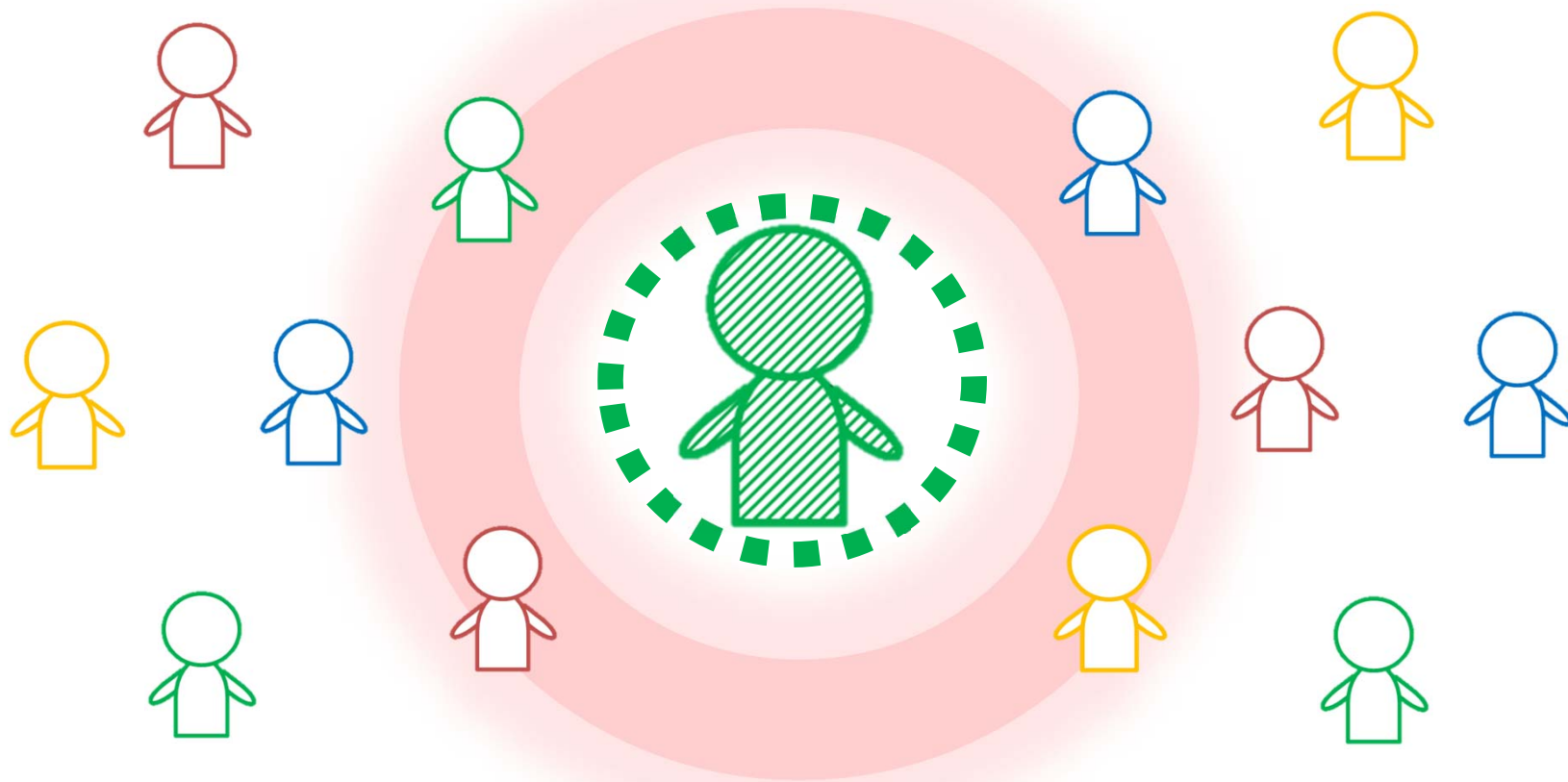
- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる

《 小学校での6年間 》



小学校での6年間は、多くの友達との関わりのなかで、
自分づくり・仲間づくり・集団づくりをするための大切な時期です。

《 小学校での6年間 》



多様な個性と触れ合うことで、自分を知り、豊かな人間関係を構築するためのスキルを学び、社会性を育むことができます。

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

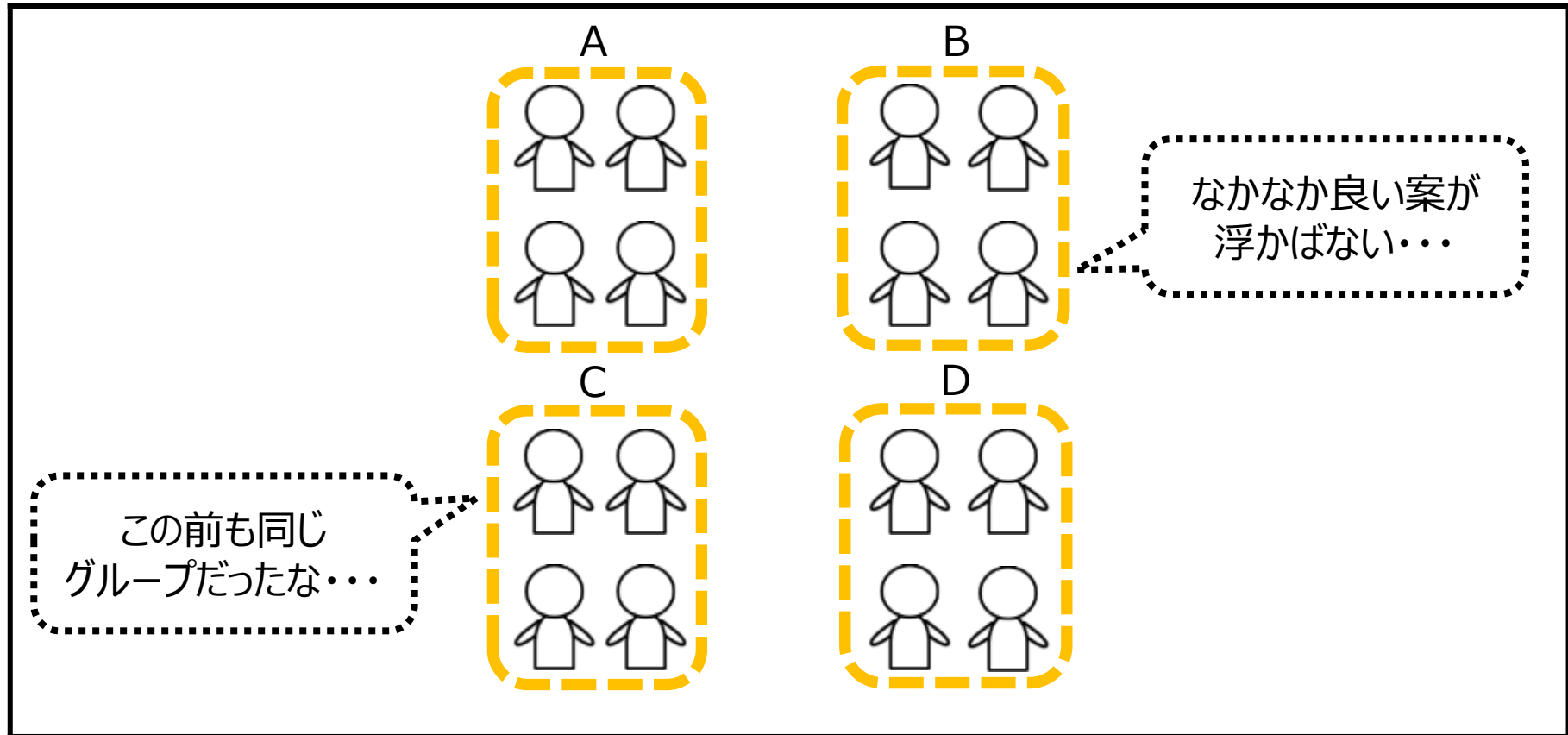
2 学習に関すること

- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる

3 先生に関すること

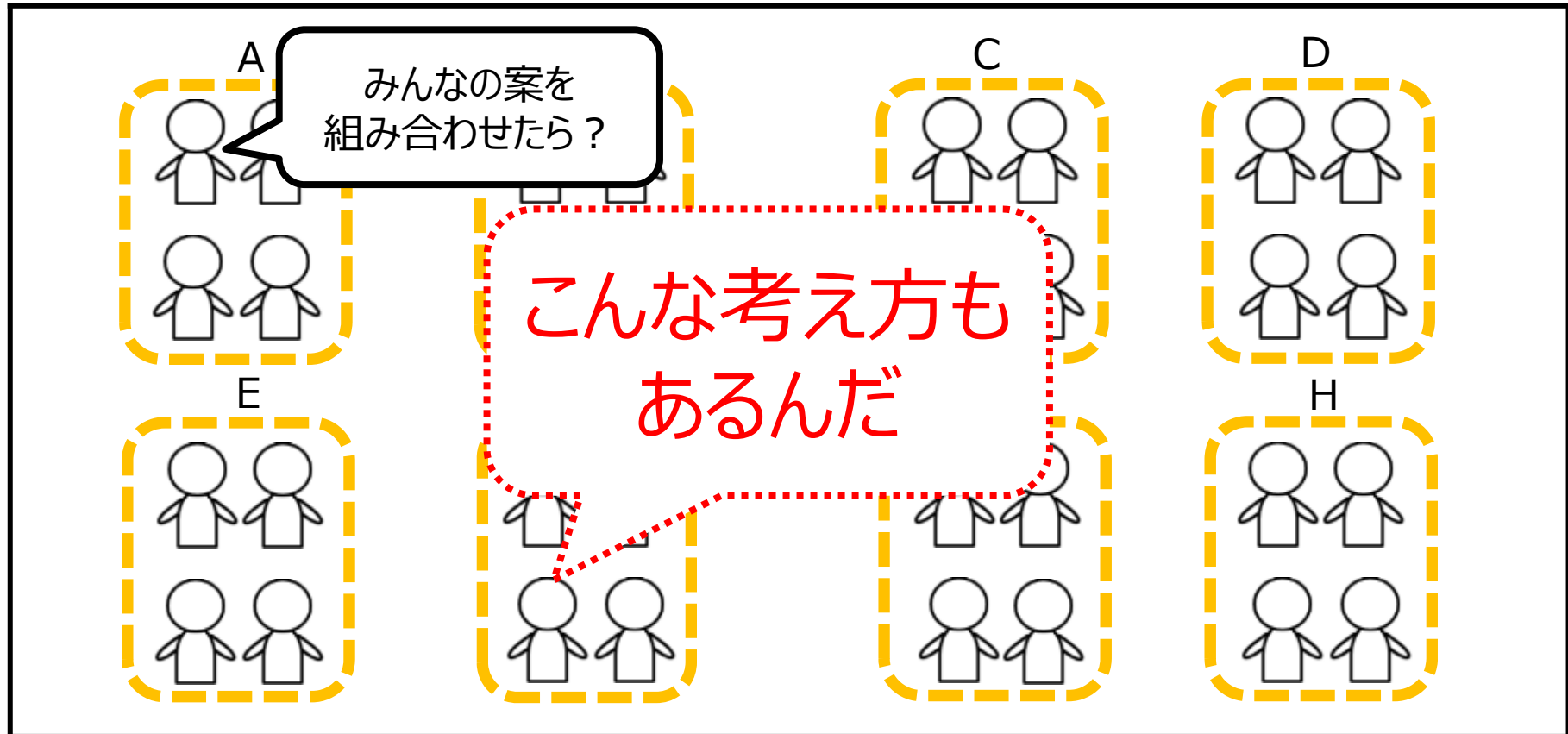
- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる

例えば、全体の人数が少ないと・・・



班活動やグループ分けに制約が生じ、多様な意見に触れる環境を作りにくくなります。

人数が多くなると、



多様な意見に触れることで、自分の考えが広がったり深まったりして、より学習意欲が高まります。

◆ 児童数・学級数が増えると出来ること

1 友達に関すること

- ・多くの友達や個性と出会うことができる

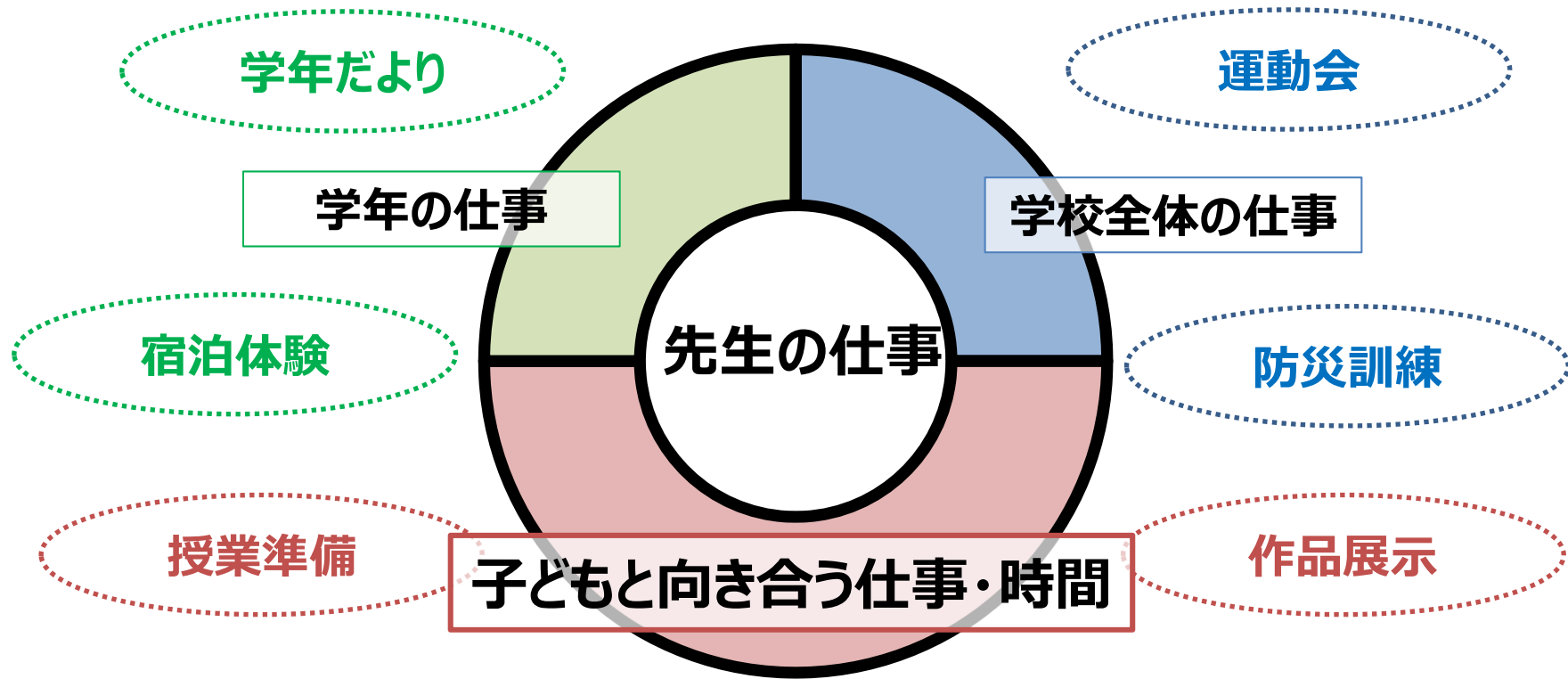
2 学習に関すること

- ・多様な意見に触れることで、自身の考えが広がったり深まったりして、学習への意欲が高まる

3 先生に関すること

- ・子どもと向き合う時間を確保しやすくなる

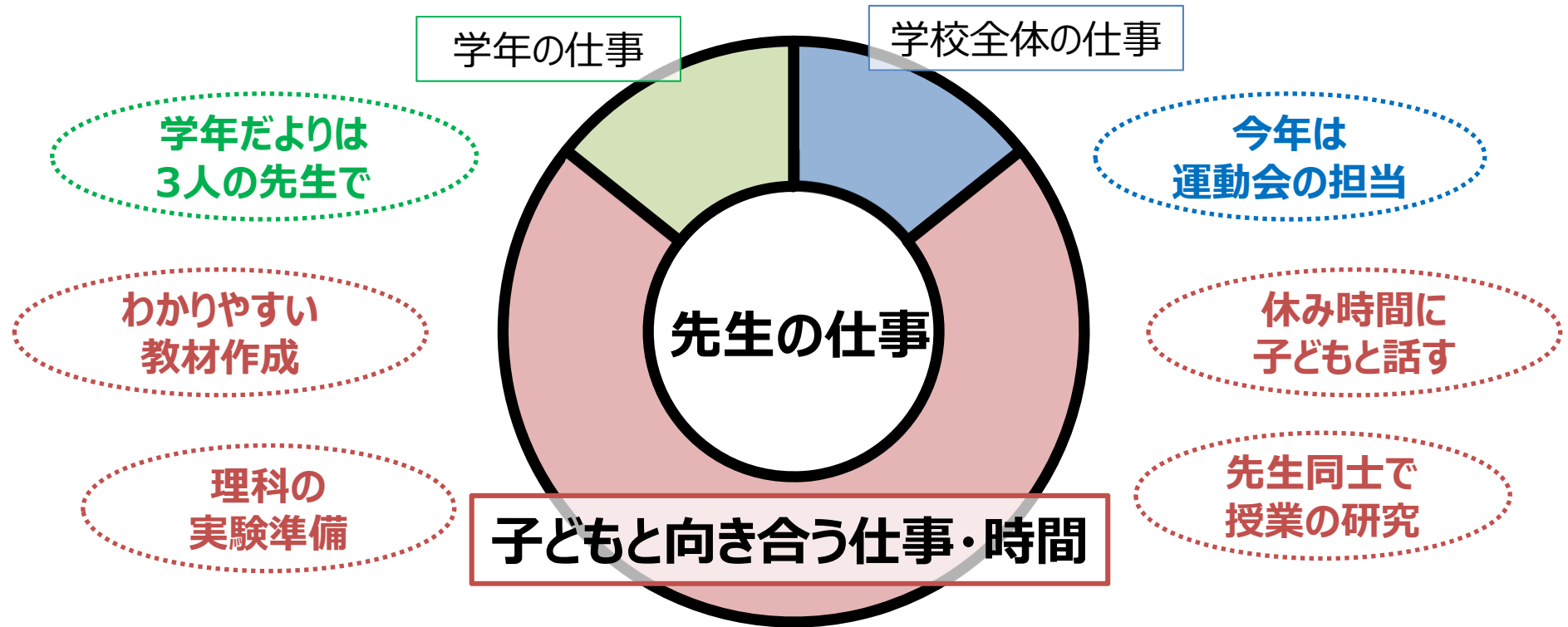
例えば、小規模校の先生は…



「子どもと向き合う仕事・時間」が最優先。

「学校全体の仕事」や「学年の仕事」は先生間で分担します。

例えば、適正規模校の先生は・・・



「学校全体の仕事」や「学年の仕事」を分担することで、
「子どもたちと向き合う仕事・時間」を多く確保できます。

◆ 学校統合により検討を必要とする事項

1 新たな通学路の検討・設定

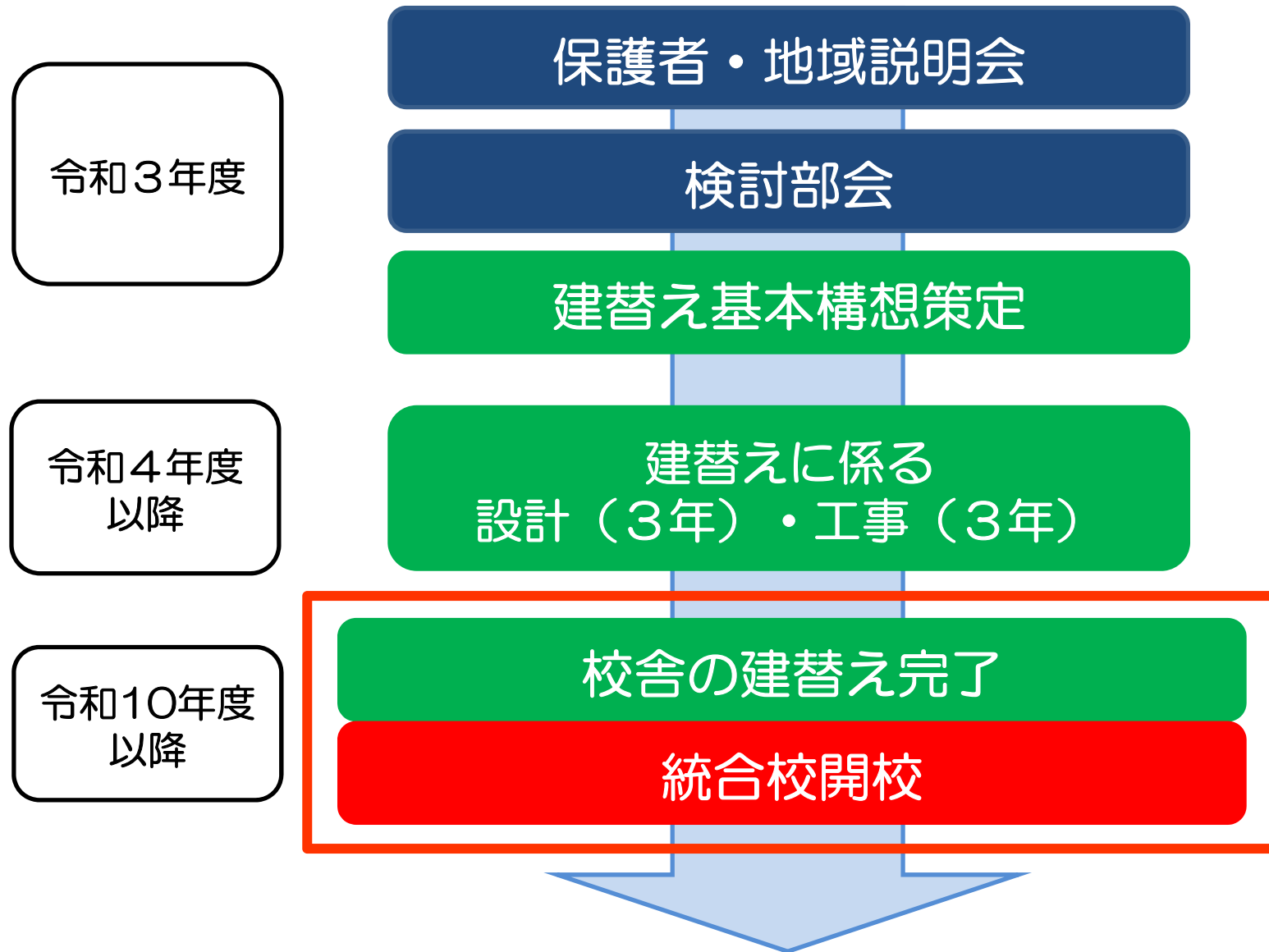
二谷小学校までの通学安全に配慮した通学路の設定が必要となります。

2 両校の歴史の継承方法の検討

学校統合にあたっては、両校を閉校し、統合校を新たに開校することを原則とするため、両校の歴史をどのように引き継いでいくかを検討する必要があります。

4 今後のスケジュール（想定）

5 今後のスケジュール（想定）



5 今後のスケジュール（想定）

【検討部会とは】

保護者代表・地域代表・学校長など、20名程の方に
検討部会委員としてご就任いただきます。

学校統合、統合時期、通学区域、学校名等
について検討します。

1ヶ月半～2ヶ月に1度、会議を開催します。

検討部会の検討経過（内容）については、
毎回検討部会ニュースを発行し、二谷小学校と
斎藤分小学校の通学区域内の全世帯に配付します。

6 質疑応答

《問い合わせ先》

横浜市 教育委員会事務局

(建替えに関すること)

教育施設課 【TEL】 045-671-3531

(学校規模適正化に関すること)

学校計画課 【TEL】 045-671-3252

【Eメール】 ky-kanagawa2021@city.yokohama.jp

【HP】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html>